

《短報》

ヤポンノキ新品種 ‘八剣枝垂れ’ の育成経過と特性

相原朋之・佐藤惟¹⁾・原靖英²⁾Breeding of the New *Ilex Yaupon Holly* ‘Yatsurugishidare’Tomoyuki AIHARA, Yui SATO¹⁾ and Yasuhide HARA²⁾

摘 要

ヤポンノキ (*Ilex vomitoria* Aiton) 新品種 ‘八剣枝垂れ’ (‘Yatsurugishidare’) は、雌の枝垂れ性品種 ‘Pendula’ の自然交雑種子を 2005 年に播種し選抜育成された品種で、2018 年に種苗法による品種登録申請を行った。樹形は枝垂れ性で、母親の ‘Pendula’ と比較し、側枝は主幹からの分枝直後に下垂を始める。雄性品種で、5 月上旬に開花する。葉身は長楕円形であり、幅は約 8mm、葉表面は淡緑色、灰色の枝に密に着き常緑である。

分枝直後に下垂するため、株張りが狭く、樹形が細いため、剪定にかかる労力を低減できる。また、常緑で病害虫の被害が少ないため、狭隘化した都市空間の植栽に適する。

‘八剣枝垂れ’ の独特な樹形を活かしてシンボルツリーとしたり、刈込労力が少ない生垣としての利用が期待される。また、既存 ‘Pendula’ の受粉樹としての利用が可能である。

キーワード：ヤポンノキ、育成、観賞樹、枝垂れ

Summary

Yaupon Holly (*Ilex vomitoria* Aiton) new variety 'Yatsurugishidare' was bred in 2005 from natural cross seedlings of the weeping female 'Pendula' and applied for variety patent registration under the Seeds and Seedlings Law in 2018. It has a drooping form, with side branches beginning to droop immediately after branching from the main trunk, compared to the mother 'Pendula'. It is male in sex, with flowers blooming in early May. The leaf blade is long oval shape, about 8 mm wide, and the leaf surface color is light green, densely attached to the grey branches and it is evergreen.

Because the branches begins to hang down closer to the trunk, the plant width is narrower, and thus less labor cost is required for pruning. It is suitable for planting in urban confined spaces due to its evergreen color and low pest damage.

Making use of its unique shape, it is expected to be planted as symbolic tree or hedge which requires less pruning. It can also be used as a pollinizer tree for the existing 'Pendula'.

Key words: Yaupon Holly, breeding, ornamental tree, weeping

緒 言

神奈川県では、都市化に伴い変化するニーズに対応するため、特に樹形に着目し、緑化樹の品種改良に取

り組み、これまでにハナモモ「照手シリーズ」においては、ほうき性および枝垂れ性の品種（山崎ら 1987, 佐野ら 1991, 堀越ら 1992）、サルスベリ「ディアシ

¹⁾元神奈川県農業技術センター、²⁾現神奈川県環境農政局農水産部農政課

リーズ」において矮性および枝垂れ性の品種（堀越ら 2004）を育成してきた。

ヤボンノキ (*I.vomitoria*) は、北米南東部原産で雌雄異株の低木または小高木である。ほうき性、枝垂れ性および矮性と様々な樹形の品種があり、北米では街路樹から庭園樹まで幅広く利用されている（堀越 2002）。

ヤボンノキを神奈川県にあった観賞樹として活用するため、旧園芸試験場相模原分場では枝垂れ性の雌樹である‘Pendula’、ほうき性の雄樹および矮性樹（性別不明）を遺伝資源として導入している。また、フラワーセンター大船植物園に植栽の直立性の雄樹および雌樹をヤボンノキと同定した（岡部ら 1986）。その中で総合的に優れる‘Pendula’の普及を試みた。しかし、‘Pendula’は受粉樹（雄樹）が少なく、結実が劣ったため、定着するに至らなかった。そこで、これら導入品種を育種親とし枝垂れ性が顕著で観賞性が高く、細身の樹形で都市エリアの植栽に向く、雄樹の品種改良に取り組み、目的の新品種を育成したので、その育成経過と特性について報告する。

育成経過

2003年に‘Pendula’から得た自然交雑種子を播種した。2005年に鉢上げし、2008年に露地圃場に定植育成後、2011年に雄樹であり、樹形および樹勢に優れる18個体を選抜し、移植した。2013年に樹形、生育および開花状況から判断し、6系統に絞り、2018年に対照品種（‘Pendula’および普通樹形雄系統）とともに特性調査を行った。その結果、雌雄性および樹形で対照品種と明らかな区別性が認められたことから、新規性有りとして育成を完了し、2018年12月21日に品種登録出願し、2019年3月14日に出願公表された（品種登録出願番号第33573号）。

品種特性

‘八剣枝垂れ’は、樹形が枝垂れ性の小高木（樹高約4~6m）である（表1、図1）。葉身の形は葉身長が17.5 mm、葉身幅が8.0 mmの長楕円形で、葉縁は浅い鋸歯が入る。葉表面は緑色（R.H.S.カラーチャート137A）で、葉裏面は淡緑色である（表2）。雄性品種で、

5月上旬から中旬に直径約7 mmの薄い黄緑色の花が1花房当たり約10個着生する。雌ずいはなく雄ずいは4本で葯の色は黄色である（表3、図2、3）。

樹形は枝垂れ性であるが、既存の雌品種‘Pendula’と比較して、分枝直後に下垂するため、株張りが小さい細身の樹形となる。

新品種の利用

ヤボンノキ新品種‘八剣枝垂れ’は株張りが小さく、枝垂れる独特の樹形と常緑小葉である特性を活かし、シンボルツリーとして庭園や公園等での利用が見込まれる。樹高は4~5 m程度の小高木であるが、幹の肥大が遅く、株張りも大きくならないため、狭隘化した都市部の植栽スペースにも適応する。

また、株張りが狭いことを活かし、列植すると、今までにないシルエットを示し、独特の生垣の演出が可能である。

さらに、既存の雌品種‘Pendula’の結実を促す受粉樹として、混植したり、‘Pendula’に当該品種の枝を接木することも可能である。

命名由来

神奈川県農業技術センター所在地である平塚市上吉沢は日本武尊の東征の際に陣を張ったとされ、日本武尊を祭る八剣神社が複数建立されている。また、先端が尖り細長い樹形が、東征にあたり託された天叢雲剣に似ることから、‘八剣枝垂れ’と命名した。



図 1 樹形

(左 ‘八剣枝垂れ’, 右上 ‘Pendula’, 右下 普通樹形雄系統)

表 1 ヤпонノキ新品種及び対照品種の樹形及び枝の特性

品種名	樹形	前年枝の色	前年枝の直径 (mm)	前年枝の節間長 (mm)
八剣枝垂れ	強枝垂れ性	灰	2.2±0.2 ^z	4.9±1.1
Pendula	枝垂れ性	灰	2.3±0.3	7.9±2.3
普通樹形雄系統	開帳性	灰	2.9±0.3	7.4±1.3

^z: 平均値±標準偏差.

表2 ヤボンノキ新品種及び対照品種の葉の特性

品種名	葉身の形	鋸歯数	鋸歯の深さ	葉身長 (mm)	葉身幅 (mm)	表面の色	落葉性
八剣枝垂れ	長楕円形	7.3±1.0 ^z	浅い	17.5±2.2	8.0±1.1	green(137A) ^y	無し
Pendula	長楕円形	8.0±1.2	浅い	20.9±2.6	8.9±0.8	green(137A)	無し
普通樹形雄系統	長楕円形	7.7±0.8	浅い	17.7±1.4	10.2±1.1	green(137A)	無し

^z: 平均値±標準偏差.

^y: 色の表現はR.H.S. Color Chartによる. () 内は同番号.

表3 ヤボンノキ新品種及び対照品種の花の特性

品種名	花の形	花の直径 (mm)	一花房あた りの花数	花弁数	花弁の色	雄ずい の数	葯の 色	雌ずい の数	柱頭 の色
八剣枝垂れ	一重	7.1±0.4 ^z	9.8±2.0	4	pale yellow green(157C) ^y	4	黄色	-	-
Pendula	一重	6.4±0.3	3.3±0.8	4	pale yellow green(157C)	-	-	1	緑
普通樹形雄系統	一重	6.6±0.4	14.3±5.6	4	pale yellow green(157C)	4	黄色	-	-

^z: 平均値±標準偏差.

^y: 色の表現はR.H.S. Color Chartによる. () 内は同番号.



図2 ‘八剣枝垂れ’花



図3 開花枝

(左から ‘Pendula’, ‘八剣枝垂れ’, 普通樹形雄系統)

引用文献

- 堀越禎一・佐野嘉子・岡部誠・山崎和雄・高橋栄治. 1992. ハナモモ新品種‘照手姫’の育成経過と特性. 神奈川園試研報. 42:29-31.
- 堀越禎一. 2002. 植木生産の手引き. p101-102. 神奈川県植木生産組合連合会.
- 堀越禎一・岡部誠・相原朋之. 2004. サルスベリ新品種‘ディアルーージュ’‘ディアパープル’‘ディアウイーピング’の育成経過と特性. 神奈川農総研研報. 145:21-25.

- 佐野嘉子・岡部誠・山崎和雄・高橋栄治. 1991. 枝垂れ性モモ品種‘照手水蜜’の経過と特性. 神奈川園試研報. 41:19-22.
- 山崎和雄・岡部誠・高橋栄治. 1987. ハナモモ新品種‘照手紅’‘照手桃’‘照手白’の育成経過と特性. 神奈川園試研報. 34:54-56.